平成２９年度　専門学校デジタルアーツ東京

学校関係者評価報告

平成２９年８月２３日

平成２８年度学校自己評価（基準日：平成 29 年 3 月 31 日）をもとに評価実施

学校法人 菅原学園
専門学校 デジタルアーツ東京

平成 29 年度　学校関係者評価報告書

学校法人菅原学園
専門学校デジタルアーツ東京
学校関係者評価委員会

学校法人菅原学園　専門学校デジタルアーツ東京学校関係者評価委員会は、「平成 28 年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

１．学校関係者評価委員、事務局

（１）学校関係者委員

業界関係者：和田裕介　（株式会社サンステラ　フィギュア HP 統括部長）
業界関係者：大平隆幸　（株式会社サンシャインコーポレーション　代表取締役社長）
業界関係者：東海林龍　（株式会社レオパードスティール　代表取締役）
業界関係者：山野辺一記（株式会社エッジワークス　代表取締役　脚本家）
業界関係者：田島大樹　（株式会社ジーアングル　社長室次長）
卒　業　生：大貫良祐（フリー原型師）
地 域 住 民：平山智邦（地元企業：有限会社ツチキン　取締役）

（２）事務局

学校教職員：生田光幸　　専門学校デジタルアーツ東京　副校長
学校教職員：都築敏明　　専門学校デジタルアーツ東京　教務部　部長
学校教職員：亀山　悟　　専門学校デジタルアーツ東京　学生部　部長
学校教職員：五十嵐ゆかり　専門学校デジタルアーツ東京　企画広報部　課長
学校教職員：有我正則　　専門学校デジタルアーツ東京　事務管理部　課長

２．平成 28 年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

評価項目	評　価・質　問	評価に対する今後の学校の取組等
(1)教育理念 ・目標	●豊島区が「アート・カルチャー都市宣言」をし、池袋での様々なイベントを開催することへの学校の協力は、とても評価できる。平成 29 年度は具体的にどんな協力をしていくのか。	○池袋サンシャインシティで開催される「TIFCOM2017」（東京国際映画祭）の紹介ムービーの制作や「東京アニメアワードフェスティバル 2018」（国際アニメーション映画祭）の運営に係わるボランティアスタッフの派遣及びアニメ作品の応募を検討している。
	●官民連携による「池袋ブランディング・シティ戦略検討会」に学校が選ばれたことは学校のブランド力を上げるうえでもとても評価できる。検討会がめざしている街作りの方向性はどの様なものか。	○官民連携を促進しつつ池袋の特性を生かしたインバウンドの推進、観光客や外国企業の誘致といった池袋周辺地域における国際競争力の強化をめざしている。

(2) 学校運営	●紙ベースであった各種規程集が電子化（CDROM）されたとの報告があったが、その CDROM の閲覧方法はどの様にしているのか。 ●稟議書の決済システムがネット経由での回議が可能になったとの報告があったが、具体的に感じられるメリットは何か。	○各部署の責任者に配布し、職員からの閲覧希望の場合は、速やかに渡せる様に体制を整えている。 ○回議がどこまで進んでいるのかなど現状が分かりやすく、また決済忘れなどの心配が無くなり、付随する仕事が進めやすくなった。
(3) 教育活動	●特別講座期間で普段の授業ではできない他学科の講座の受講や高度なテクニック講座、就職対策・税金対策講座など幅広く準備できたことは大変評価できる。今後更に学生にとって魅力あるものにしていくためにはどの様な事が考えられるか。	○年に２回の開催期間を設け、幅広く選択できる様にした事が、学生の良い評判に繋がって良かった。これ以上開催期間を増やす事はできない為、学生から講座内容の希望を取ったり、講座数を増やす事で、学生の満足度を上げていきたい。
(4)学修成果	●就職率の向上をめざし、新たに対策した内容は何か。 ●退学者の理由に経済的なものや家庭事情が上げられているが、経済的に厳しい学生に対して学校の対策はどの様なものか。	○カリキュラムの変更（デジタル授業の増加）やグループワークでの作品作りによるコミュニケーション能力の向上を目的とした授業を展開している。自分ひとりの制作では得られない、他メンバーの状況把握には、自然と会話も増えコミュニケーション能力以上に統率力を得る学生も増えてきた。 ○各種奨学生や教育ローンの用意の他に学費分割や延納制度を用意し、学生の現状に合った納入方法に対応できる様にしている。
(5)学生支援	●各業界との繋がりを強くし動向を捉え、業界ニーズに合った教育の方向性は評価できる。その中で実際に教育を担当する先生達の技術向上を目的とした対策は何か。	○職業実践専門課程の指導力向上にも上げている現役のクリエーター、アーティストを招き、教員向けのセミナーを開催したり、外部会場で行われるカリキュラムマネージメントやアクティブラーニング対する研修、カウンセリングの先生による学生心理への対応セミナーなど幅広い技術向上をめざしている。
(6)教育環境	●校舎の修繕や新しい設備を導入し、業界ニーズに合った教育環境を整える姿勢はとても評価できる。ここ数年で大きく変わった環境にはどの様なものがあるか。	○28 年度の報告でコンピュータ関連でのペンタブレットの導入を上げていたが、アニメ学科が導入した液晶タブレットに続き、29 年度はイラスト系のコンピューターも全て液晶タブレットの導入を行った。今後はゲーム系などを含めた全てのコンピュータが液晶タブレットでの環境になる様検討している。

(7)学生の 受け入れ募集	●志望校決定が早まる傾向との報告があったが、どの様な理由が考えられるか。 ●オープンキャンパス参加者は学校の本当の姿を知りたいと思って参加していると思う。それに対し在校生や卒業生を数多く呼び対応している姿勢はとても良いと思う。	○専門学校での早期ＡＯ入学制度の定着と共に、エンカレッジスクールやチャレンジスクールといった入学時の学力試験や定期試験の無い高校や通信制などの学力以外の目標を持った高校生が早期に進路決定を望む傾向にある。 ○在校生、卒業生以外にも業界人を多数招き、業界動向や採用状況の説明をしてもらっている。本物の言葉で語る事が学校の信頼を得られる要因になっていると思う。
(8)財務	●意見・異議なし	
(9)法令等の 遵守	●意見・異議なし	

．総評

上記９項目に対し、しっかりとした自己点検・自己評価されており、専門学校デジタルアーツ東京の教育活動、学校運営は概ね高い水準で維持されていると評価する。

特に変化の激しい業界動向を適切に捉え、教育内容に生かしている事は、学校全体の対応力の高さが感じられる。

また、学校運営だけでなく豊島区の委員会参加やイベント協力など、地域社会への協力姿勢は学校の存在価値を高めていると思う。

学生募集においても時代の流れに添った対応をしており、引き続きお願いしたい。

今後も社会ニーズを適切に捉え、貴校の教育内容の質の向上に対する努力の継続を望みます。